

津高同窓会報

発行所
津市新町3丁目1-1 校局
津高等学務
同窓会事務
0592-28-0256
共立印刷株式会社

大盛況の百十周年記念パーティー……2

三重九十周年総会……	3
百十周年記念演奏会……	3
百十周年記念演劇……	3
第二回同窓美術展……	4
第二回同窓歌碑建立……	4
弘田龍太郎歌碑建立……	4
ポルトガル・ス・ペインの旅……	5
世界の僻地を旅して……	7
百十周年記念ゴルフ大会……	5
一つの黄金時代……	6
ベルリンの壁を描いて……	6
おやじの恋……	6

語りつぐ 永遠のこゝろ

同窓会長 辻 嘉一 (昭和10年卒)



あわただしい歳が近づいて
まいりました。本年は内外共に波乱
に満ちた年でしたが、今秋天皇陛

下ご即位の儀式が厳かに挙行され、
これに平和と日本を寿ぎたいと
存じます。

「高承のとおり、本年は津高創立
百十周年のおめでたい年に際し、
同窓会としては、多彩な
記念行事を数々展開して来ましたが、
何れもそれ相応の成果を挙げ
得たことと確信しております。会

員の皆様には、物心両面にわたり
「支援」協力をいただき、心から
厚くお礼申し上げます。

本行事のハイライトである弘田
龍太郎歌碑除幕式は九月二十三日
津高文化祭の日に、中庭で遺族
はじめ関係者多数ご参加のもと、
盛大に行なわれました。除幕され
た歌碑の昇壇までききえと共に、
今回のと合せて三つの碑ができあ

がり、同窓生の思い出のよりとど
大廟のあるところには、思わず
胸が熱くなるのを見ました。

津高音楽部による津中校歌「伊勢
大廟のあるところ」には、思わず
胸が熱くなるのを見ました。

ご挨拶

学校長 上野 喜久生



同窓会員の皆様には益々ご清栄
にて活躍のこととお慶び申しあ
げます。

本年度津高同窓会では、創立百
十周年を記念して、多彩な事業が
実施されました。いずれも多数の
参加者があり、成功裡に終了致し
ましたことは誠に喜ばしい限りで
あります。その際、本校教員振興
費として多額の「芳志を賜ったほ
か、茶道具(御園柳一式)や絵画
等をご惠贈いただき、同窓会の皆
様の常に変わらぬ母校への「厚情に
対し深く感謝の意を表する次第で
あります。

学校におきましても九月二十二
日の記念式典をはじめ、名大教授

をばくむよすがとして、深く感
銘を与えるものと存じます。しか
も精魂をこめてレリーフ製作に取
りくまれた弘田龍太郎氏(昭和四十
一年卒)、鶴橋の千草光洞氏(昭和
二十三年卒)、写眞の稲葉祐三氏
(昭和二十八年卒)等、同窓生は
かりで文字と折り手作りの芸術品
が完成されました。

記念行事の成功もさることなが
ら、私の最も嬉しいことは、百十
周年を契機として、九州支部の発
足、十年振りの名古屋支部の再ス
タート、そして東京でも津高東京
同窓会として、マンモス同窓会が
誕生するなど、各支部が充実され
てきたことです。

思えば、表りの多い一年であつ
たと存じます。今後は同窓会発展
のため、若い世代の方々の活躍を
望むと共に、会員皆様のご多幸を
お祈り申し上げます。

三重讃歌

野田暉行 (昭和34年卒)



先日、長年の念願もあり夢であ
った交響曲「三重讃歌」が完成し、
三重県の音楽家、関係者の総力を
結集して初演が行われた。

佐佐木幸綱氏の詩、私の作曲に
よるこの曲は、三重音楽フェステ
イバルのために書かれたもので、
約五十五分を要するカンタータで
ある。

演奏会は、九月十四日に東京サ
ントリーホールで、十月二十八日に
は三重県文化会館で行なわれたが
県内から約一四〇名の合唱、約一
三〇名のオーケストラ、そしてリ
スト北住氏が参加し、ウィーン
の「名歌手前奏曲」、ラベルの一
左手の協奏曲、等と共に、大いな
る熱演を展開したのであった。

普通、演奏会ではあまり起こら
ない各楽章毎の拍手をいただき、
初めての東京公演で、聴衆の反応
を心配していた演奏者達を大いに
燃えさせた。東京公演には田川
知事も、お忙しい中、遠路駆け付
けて下さる等、県内外からほとん
とが大勢の方が聴きに來て下さ
った。有り難いことである。

演奏会後、プロ、アマを問わず
多くの方から賛辞をいただいたが、
我々三重県人手作りの音楽が、自
分達の想いのみに終わらないの
未来を確認出来たように思い、嬉
しい限りであった。

この大きな演奏会を珠玉のもの
とし、支えて下さったすべての方
々に、深い感謝を捧げたい。演奏
に携わった方々はもちろん、ステ
ージ以外の所で、成功に導くべく
お力添えをいただいた津高同窓会

員の皆様をはじめ、多くのの方々、
そして企画から練習、本番に至る
長い期間にわたって、始終変わら
なく絶大な熱意と細心のフナ
ローを示された三重テレビ、関係
各位に厚く御礼申し上げる次第で
ある。今回の成功は、まさに、こ
れらすべての人々の和によっても
たらされたものである。

この和から、更に未来へ繋がる
新しい何かが生まれて来ることを
願って止まない。三重から世界に
向けて発信する何か。その中で、
この「讃歌」も、育つていつか
欲しいと思う。

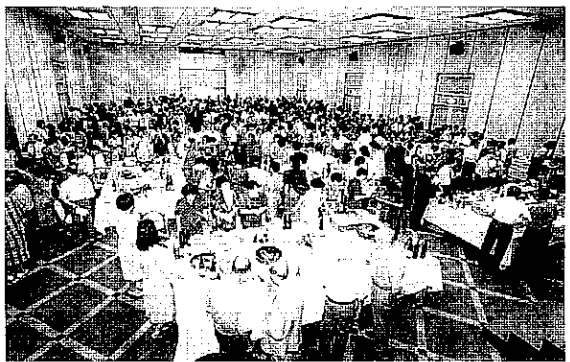
津を離れて早くも三十余年が経
つた。津にいた頃は何気なく享受
していたことが、実は如何に貴重
なことであったか、この頃気が付
くことがある。

余欲に余るが、またつい先年の
こと、私の実家近くに昔からある
和菓子屋さんが、久しぶりに「求
肥」を買ってみた。その美味しい
こと、津に居た頃は特別に意識
もしなかったが、こうして時間と
体験を経ていると、客観的に、そ
れは絶品なのであった。店舗は
大きくなり、洋菓子や種々の新し
い物も置く店に変身はしていたが、
中身は変わるところか、ますます
磨かれたものになっていた。しか
も、取り立てて宣伝するでもな
く、知る人ぞ知るの風、
この頃よくあることだが、いい
味や胸で愛顧していた店が、人気
が出て大きくなるにつれそれを失
い、ただの店になってしまふ。初
心の意気込みを持続できないので
ある。アマチュアから真のプロへ
の姿勢の難しさであるうか。

三重の「和」はそのような道を
辿ってもらいたくない。三重県人
本来の謙遜さを失わず、本物の道
を行きたいものである。
(作曲家 東京芸術大学作曲科教授



第21回日展 1989年特選「映」森谷重夫氏(元津高教諭)
タイトル文字 千草光洞氏書(昭和23年卒)



心ひとつに!! 大盛況の110周年 記念パーティー

同窓パーティーを 担当して

水谷 千春 (昭和32年卒)

今年、津高は創立百十周年を迎えました。この記念すべき年に私達昭和三十三年卒と四十四年卒で同窓パーティーのホスト役を務めることになりました。

幹事役を毎年順番に行なうことは、同窓会への関心も高まることも、学年のまとまりも一層良くなり、大変良いことだと思いますが、いざ日分達の年になりますと頭を悩ますこともたくさんありました。なかでもアトラクションについては各学年とも、いろいろご苦労されたこと存じます。

本年私達は、シャンソン歌手の荻野宏さんを招くことになりました。この計画は同級生の藤村君が荻野さんのマネージャーをしていたので比較的スムーズに話がまとまりました。しかし、ギヤラはどうするか、又、お酒の入っている会場で、果して皆さんに歌を聞いてもらえるのか等々悩みました。いろいろ話し合う中で、ギヤラに

ついては広告で出来るだけ贈りようにし、プログラムの工夫により乾杯の前に数曲、宴会の中で数曲歌っていただくことになりました。会場設営等の準備整い、真夏の暑い太陽が照りつける午後、六百余名の同窓生達がぞくぞくと詰めかけ、会場のセンターパレスホールはあふれるばかりになりました。

社長の挨拶にはじまり、上野学校長に挨拶をいただいたあと、代議員会の報告、各記念行事の表彰式、絵画の贈呈と続き、物故会員への黙祷とプログラムは予定通り進行し、いよいよ荻野宏さんの登場です。オープニングショーは「パリの屋根の下」ソフトで語りかけるような歌声が会場に流れると急に静かになり、みんながじっと荻野さんの歌に聞きほれていました。続いて、大先輩弘田龍太郎作曲の「叱かれて」、三曲目は「パリはシャンパン」と続き、前

半を終わりました。乾杯の後祝宴に入り、久しぶりに再会した友達と酒を飲みかわし、話に花が咲き会場が一段と賑やかさを増すにつれ、逆に我々幹事は後半の歌を静かに聞いてもらえるかどうか心が

私は旧制津中の第六十回の卒業で現在その年度幹事を仰せつかっています。

去る八月四日、総会の日ですが用があつて同窓会事務局へ電話をしました。用件が終了で電話を切ろうとしたところ瀬古先生が「浜地さん、今、時間が空いていますか?」とのこと。よくお聞きすると今から荻野宏さんのミニコンサートが学校であるから、よかつたらどうぞお出かけをとのこと、これは在校生への歌のプレゼントだそうです。

昔から私は荻野さんの大ファンでしたから喜んですぐ行きますと返事。

音楽室には前の席は在校生が、後の方にはちよつと年配の方がたくさん居られました。丁度音楽の先生が荻野先生の紹介をしてられるときでした。

私とシャンソンの出会いは、以前から絵を趣味としていたことから、パリへスケッチ旅行にいったときです。何度も渡仏するうちに、シャンソンに魅了され、今ではかなり精通してきたと自負しているつもりです。

さて、大きな拍手の中、いよいよ荻野さんの登場です。大衆若々しい姿にまず驚き、歌のすばらし

「ころ、シャンソン、荻野さん

浜地 篤 (昭和19年卒)

配になってきました。二度目の登場は「冬のバラ」で始まり、タンゴのメロディ。「幸福を売る男」ラ・メルシ等と続き、アンコールにこたえて会場の皆さんと、「オーシャンゼリゼ」を合唱しながら握手を交わし、一段と盛り上がりほじといたしました。三枚の校歌を斉唱して、無事パーティーを終えることができました。

「語りつづける永遠のころ」をモットーに始まった今年のパーティーも私達の心配に反し、予想外

の好評となりました。お一人一人の協力があったのであり、受付等でご協力下さいました同窓会実行委員の方々にも併せてお礼申し上げます。

最後に名古屋より軸巻参りして下さいました、フリーアナウンサー山田陽子さん、昭和四十四年卒が名司会で荻野さんの歌を「扇引立て下さいましたことに感謝いたしております。

来年も皆様方と元氣にお逢いできることを楽しみにしています。

さきにまだ新しい感動を覚えました。バックの演奏をされるまだ若いビ

の芸術家は年令を全く感じさせないのだと改めて感心しました。

このお話も荻野さんのやさしいお話を聞いて感じたことは、



人柄が十分感じられ、その開聲がにピアノが流れ、終るとすぐ伴奏に入る(当然のことですが、これが実に美事なものでした。

本日の歌は「心」で歌うものだなと再認識したものです。すばらしいミニコンサートに心踊るひとときを過すことが出来ました。

もちろん今後の総会にも出席しましたが、受付の横で荻野さんのカセットテープが販売されており早速買いました。今は部屋の

中で、あるいは車の中で毎日先生の名曲を楽しんでいる次第です。こんな有意義な会を企画実行された卒業生幹事の皆さんに厚くお礼を申し上げると共に「津高百十周年・津高健在なり」と心強く感じました。

先生の今後ますますのご健勝ご活躍を心よりお祈りする次第です。

芦野先生に朗報二つ

①パリ市金賞(九月十七日) パリ市が世界各国のあらゆる分野で特筆される活動をして来た人に贈る「パリュヴェルメイユ勲章」(金賞)をシャンソン界で初めて受賞されました。

②紫綬褒章(十一月一日) 学問文化芸術に功績があつた人に贈られる「三文化勲章」とも呼ばれる紫綬褒章を十二月十八日に受賞されるとの発表がありました。

した。

<p>旅先は地球。</p> <p>三交旅行株式会社</p> <p>本社 ☎0592(27)6131</p>	<p>For A New Urban Renaissance</p> <p>三交不動産株式会社</p> <p>本社/津市丸之内9番18号 TEL 0592(27)5111</p>	<p>ひろがる暮らしのネットワーク</p> <p>三重交通</p> <p>〒514 津市中央1番1号 Ⅸ(0592)27-3131</p>
--	--	--

三重桜九十周年総会

今村 房 (大正12年卒)



四月二十日出席者三百三十余名で香良洲松坂屋と体育館に分れて開催。出席いただいた先生方も二十名で祝辞をいただき、大盛況。古い方々は松坂屋で良妻賢母型の教育を受けた思い出、若い方

三重桜九十周年記念総会

資料展について

伊藤ミヤコ (昭和15年卒)

本年は創立津高女創立九十周年にあたり、卒業生にとつては思い出深い香良洲リレーの終着地。香良洲の松坂屋で記念総会を計画しました。予想以上の参加があり、急遽香良洲町体育館を借用して第二会場(若年組)とし二本立の総会としました。

幹事たちはその手配に奮りました。第二会場にいた会員の方々は受付、展示会等の往復に迷惑をおかけしましたにも拘らず協力をお願いし、会場も盛況で閉会し感謝しています。出席者の

方々には三重桜常入りのアルバムを記念にお持ち帰り願いました。一年前から準備して皆様から寄贈いただいた思い出の資料展は予定通り松坂屋の大広間廊下で開催。七百点に及ぶ出品があり、創立当時の校舎、日露戦争の頃の写真、和紙綴りのピンク長紙の修身教科書、服部舞子(旧姓田中)さんの歌会始め録音入選の記念品等貴重な資料が展示されました。三重テレビの取材もあり、夕方には県下にそれが放映されました。

現役生徒のみなさんの盛況。そして裏方として集まってくれた皆さんの仲間の助けのおかげで、開演を前にして、私達は厚意と友情の音楽を感じていた。私たちの一つの音が一〇〇年の歴史の重みの上にもうす結び合う。舞台上上がる、さびやかな温かい満場の拍手が待っていた。

毎朝靴は私の丸いお尻(そのころ)に上達しませんでした。この事をOBの方に相談したところ「もう一度一から始めよう」と励まされ、それからが部員一同初心にかえて、こつこつと練習を積み重ねることにできました。

この他にも様々な苦難(宿題との戦いなど)はありましたが、コンクールにはない演奏会の楽しさを体験することができました。それは「音楽を楽しむために演奏できる」ということです。私達のクラブは「聴衆の心をただけ揺り動かす」ことを目指して、

「人の望みよ 喜びよ」

津高創立110周年記念演奏会

伊東 玲 (昭和52年卒)

パッパの一人の望みよ喜びよがアンコールだった。国際的ナンバーでこれからというときに惜しくも故人となられた山路芳久氏の同級の方々が、演奏会に希望された曲だった。私たちの演奏ではとてもこの曲のすばらしさを十分に表現できないのでは思ったが、むしろアンコールでというところもあつて、却つて純粋な気持ちの演奏ができたと思ふ。



去る九月一日津高創立百十周年記念演奏会が行われました。二年記念演奏会。昔年に津高に在学で、この演奏会に我がブラバンド部が出演させていたたいことを、今とても光栄に感じます。

重いものでした。と言うのは、私は八月月上旬に出場したコンクール以来、お盆で十日間ほど練習のない日が続く。演奏会に向けて練習を再開した時には、曲にならないうまひで下手になっていたから。以前はもっとうまくできたのに、そんな気持ちからあせりが生じ、

求めて音楽作をしています。けれどもコンクールなどではやはり「技術的な完成度」で評価されます。この演奏会では、みんなが本当にのびのびとした演奏ができ、今までの最高の出来になったのではないのでしょうか。

同じ学校の人を追越す時は丁寧にお辞儀をします。又追越される人も挨拶をお辞儀を、これが良妻賢母三重桜の教育のひとつです。靴の隣に黒塗りの裁縫箱。フランス刺繍のいろいろ。朱の漆塗の一閑張り。内側も朱の漆塗。朱色の蓋の中央に櫻が一つ。当時のデザインの素晴らしいと感じました。クラスの伊達様(川辺)はご自分の卒業証書の前で無量の模様があつたあつたアサの表紙の修業日誌。その中は和紙で、毎日毛筆で書かされたものです。

私もよく書留をして竹島先生にいただきました。その竹島先生もこの盛大な九十周年を見られたらどんなにお喜びになった事でしょう。書ききれない程の思い出をお世話下さいました。香緒有難う存じました。最後に校歌、三重桜の色もよくと余韻を抱いて帰る感じでした。三重桜の私達は戦前戦中戦後と激動の世の中を一杯元気に生きぬいてまいりました。今後も立派な母校のある事を誇りに暮らしたいと思つています。

記念演奏会に参加して

墨 香里 (3年在学)



九十周年記念総会に参加して

光 墨 庄 子 (昭和11年卒)

当時の上でリズムミカルに踊りました。同じ学校の人を追越す時は丁寧にお辞儀をします。又追越される人も挨拶をお辞儀を、これが良妻賢母三重桜の教育のひとつです。靴の隣に黒塗りの裁縫箱。フランス刺繍のいろいろ。朱の漆塗の一閑張り。内側も朱の漆塗。朱色の蓋の中央に櫻が一つ。当時のデザインの素晴らしいと感じました。クラスの伊達様(川辺)はご自分の卒業証書の前で無量の模様があつたあつたアサの表紙の修業日誌。その中は和紙で、毎日毛筆で書かされたものです。

私もよく書留をして竹島先生にいただきました。その竹島先生もこの盛大な九十周年を見られたらどんなにお喜びになった事でしょう。書ききれない程の思い出をお世話下さいました。香緒有難う存じました。最後に校歌、三重桜の色もよくと余韻を抱いて帰る感じでした。三重桜の私達は戦前戦中戦後と激動の世の中を一杯元気に生きぬいてまいりました。今後も立派な母校のある事を誇りに暮らしたいと思つています。

三重電算ソフトバンク
〒514 三重県津市桜橋2丁目177番地の3
TEL (0592) 25-1111

三重電子計算センター
〒514 三重県津市桜橋2丁目177番地の3
TEL (0592) 25-1111

松阪興産株式会社
本社/松阪市鎌田町253番地の5
☎(0598)51-0211代

意欲に満ちて

第二回美術展

美術展運営委員長 岩崎正博(昭和18年卒)



第二回日の津高同窓美術展には五部門に二六名の力作が寄せられ、大勢の観賞者と、熱心な委員さんに恵まれて、五年ぶりに立派に開催された事を感謝しています。初回より作品数は少し減ったものの、質は高くなり、中には感銘の深い作品も数多く出展され、会場の前二日会出展等、第一室に彫刻、デザイン、工芸部門を配置し、又は...

美術展について

小野政幸(昭和20年5卒)

「なかなかよかった、ちよっとした展覽会上り良かった」と言ってくれた知人がいた。平素思っていたことをつけつけ言っただけに、私はその評を素直にうけて、内心安堵を覚えました。今回も岩崎正博氏を運営委員長に、同窓会事務局の方々の御世話をお願いしながら、運営委員会を重めました。会場展示については、次のよう...

美術展の開催によせて

加藤佳子(昭和37年卒)

創立一〇五周年を契機に開かれた第一回津高同窓会展から早、五年、第二回展が平成二年八月一日から五日まで県立美術館で開催されました。作品も前回同様、多数集まり、例年になく猛暑の中で大勢の方々にご来館いただき、その模様は各社の新聞にも大きく写真入りで紹介されました。開催にあたって、私も微力ながらお手伝いをさせていただきました。

だが、前回のとき企画から開催まで大変お世話になった駒田治夫先生のお姿を今回みる事ができなかったことはさびしく胸のいたむ思いがいたしました。会場では、不思議なもので津高同窓生というだけで、一面識もなかった方々とうつと昔からの友達であったような気分になって、作品のこと、製作の事などに話がはずみ、写真を一緒に撮っていたりもしました。また、最終日のティーパーティーでは各人の自己紹介や懇談の中で、皆さんが仕事や生活に深くかかわり、それぞれ生きがいを感じていらつしやる様子がよくわかり、私もあやかりたいと思つたりしているうちに時間が過ぎてしまいました。

父の思い出

— 除幕式に際して —

藤田 妙子

(弘田 龍太郎氏・長女)



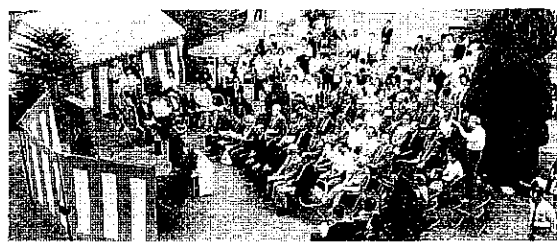
ンの声がどこからか聞こえて来る様な気がしました。父は津中からすぐ今の岩大に入學し、卒業と同時に同級生の美しいピアノの母と結婚し間もなく私が生まれました。私の最初の...

弘田龍太郎歌碑の作製にあたって

濱田 稔(昭和41年卒)



九月二十三日、除幕式の当日、大勢の来賓や先客の方々を前にして、あらためて事の重大さを認識いたしました。弘田龍太郎氏の長女妙子二人による除幕、三十八年前の記憶同様、そういえば面影が...という言葉に正直ほっとしました。表...



情の激しい写真モチーフにしたレリーフを見て「父は激しい人でした」とボンリと言われたのが印象に残っています。半永久的に残る作品だけに、耐...

久性を考え、それ以上に、作品の完成度を上げる事に努力しました。レリーフは光と影の効果です。実際に作品を設置して、立体感が仕事場と同じように出たどうか心配しました。それにしても縁には不思議なものです。二十四年前に津高を出て、その母校に歌碑を建立することになるとは、当時津高で美術の先生であった森谷重夫先生の勧めもあって、今回の仕事を引き受けることになりました。歌碑に添える飾物は、光澤洞氏、昭和二十三年卒、分譲は橋本三三氏、昭和二十八年卒にそれぞれ、お世話になりました。すばらしい両先輩と共に、歌碑の裏に、鍍金濱田稔と彫られているのを見るにつけ、その光栄に目もくらむ思いです。これから以後の仕事に対する心の持ち様に、二期一会の深い意味合いが重なるって、いい仕事の機会を与えて下さった関係の持様にあらためてお礼を申しあげさせていただきます。

360°に多感です NKK 津製作所 取持役所長 地引 眞 三重県津市雲出鋼管町1番地

地域社会に奉仕する ジャスコ

旅は楽しいメディアです 時空を越えて素敵な出会い—新しいJTBで JTB 津支店 電話(0592)28-0201 三重県津市北丸之内12

乾杯!! ス페인 (サル・エスパーニア)

松岡 晃 (昭和18年卒)

津高創立百十周年を記念して同窓会が「ポルトガル・スペインの旅」を企画募集されたところ、予想を上回る五十六名という大勢の参加があった。行は八月二十二日から十日間、ポルトガルではリス



アルハンブラ宮殿にて撮影 川喜田英郎氏 (昭和18年卒)

ボン、スペインではマドリッド、セビリア、グラナダ、トレド、バ

ルセロの各都市を巡り、八月三十日一日無事帰国した。行程の詳細は紙面の都合で割愛するが、若干感じたことを述べてみる。

特に中世に建設された街トレド、グラナダのアルハンブラ宮殿、セビリアのヒラルダの塔やアルカサル等々にそれを見る事ができる。またバルセロナの聖家族教会にいたっては、約百年前、ガウディの手によって着工され、現在も建築中で、その完成は百年から二百年先という息のながい仕事に取り組んでいる姿をみて深い感銘を覚えた。

かこれ三十年も昔初めて、タレガのギター曲「アルハンブラの思い出」を聞いて以来、スペインは訪ねてみたい国の一つでした。今回、良い企画と、良いメンバーとしてアルカサル、ヒラルダのツアーで旅行出来た事は、最高の幸せでした。

にも重なった繊細なレース模様のアーチ、大理石の柱の紋々、涼しげな噴水の流れ、庭の花々、ただただ驚嘆し、魅了されるばかりで、遠い昔、イスラム教、ユダヤ教、キリスト教等と異なった文化が重なり合っており、スケールの大きいスペインを形作って行った様です。

イベリア半島横断の記

寺嶋 賢治 (昭和62年卒)

津高創立百十周年記念ポルトガル、スペインの旅は、八月二十二日、成田空港に全員が勢揃いをしてイベリア航空の便へ乗りこんでスタートはきられた。

主な見学地はまずマドリッドでアルハンブラ宮殿、王宮、次にポルトガルに到着してリスボン市内、ロカ岬、シントラ、そして再度スペインにもどりセビリアで大寺院、ヒラルダの塔、グラナダのアルハンブラ宮殿、トレドのアルカサル

ル、バルセロナのグエル公園、サグラダ・ファミリア等、細かくあげれば書ききれないほどになる。むこうでの利用交通機関は、飛行機、バス、そして鉄道(スペインの誇る特急列車タルゴ(乗車)また宿泊はその土地の一流ホテルのホステルであった。

なかなか快適でたのしい旅行であったが、ただ残念だったのは、時間的な余裕がなかったことである。観光の要諦は先ずその土地を

早朝より竹林実行委員長のもとスタッフが各持場につき、受付、コンピューター、スタート、会場と万全を期した。「お早よう」のらつとや、「やあ」、「おいう」のお互の声ははみ、懐しい顔、久しぶりの顔、いつもの顔が揃い楽しい同窓コンペならではの、雰囲気を出した。さすがに一人の遅刻者もなく、賑やかにナイスショットで皆がスタートした。若い気な風が吹き、芝の広がりと山々の緑が一際美しかった。ペナールも鈴木さんの司会のもと、辻長、上野学校長の「挨拶をいただき、浜地さんの発声で乾杯、飲んだり、食ったり、喋へ

つたり、の和やかな一刻を過ぎた。宴もたけなわの頃、成績発表と賞品が渡された。この時まで結果は伏せられていたのだが、「或は自分かも」と言う期待を持つ事が出た。楽しみが倍増した。賞品も係の努力と、皆の協力で沢山集まり、浜地さんの絵、車のタイヤ等ニニクだった。竹林委員長のお礼の言葉で幕を閉じたが、「毎年の開催してほしい」、「楽しかった」の声は、スタッフには何よりの賞品だった。

し、王宮では、その富の集積を目をみはるばかりでした。又、セビリアでは美しいサンタ・クルス街、白い壁の窓辺の花、そしてアルカサルの塔、ヒラルダのラベスク紋様のすばらしいアラビヤの装飾が目に飛び込んできた。

待望のグラナダでは、サクラマシンの丘、そしてジニーが情熱的なフラメンコを見せつけました。アルハンブラ宮殿の光と影、幾重

知ることからはじまるが、更に自分なりの楽しみ方を探し、街の匂をかぐのもよい。その点今回のような大勢のツアーで、しかも盛りだくさんのスケジュールではむづかしいことかもしれないが、いままじ自分なりに努力すべきではなかったかと悔やまれる。

むづと日本との相違は、いろんな点でみられたが、良いところも、悪いところもすべてひっくり返したものを国の姿としてとらえ、何故そのような現状になったのか推理するのでもまた楽しい。とあえずは、いいところを真似し、悪いところは自分の教訓にできれば、それでよしとしておこう。

津高110周年記念ゴルフ大会の1日

藤田 為久 (昭和20年卒)

鮮やかな青い夏空が広がる七月十三日、津高百十周年記念ゴルフ大会が、「語りつこう」の一〇のこころ」のスローガンのもと、伊勢中川カントリークラブで開催された。

このたびは幸運にも松組の優勝という栄誉と沢山の賞品を頂き本当に自信があると思えば夕に自信を無くすゲームであるといつづく

松組優勝

広田 正夫 (昭和16年卒)

電話をとつたら、なつかしい友の声「おい、七月十三日の津高百十周年記念ゴルフに出ないか」(来年遠征ともなる)、何もかも飛びなくなった。やめやめ「何を言ってる、まだ五〇代だした。」

いよいよ、というやうな夜中に車で津に帰って参りました。鈴鹿あたりでは、どしゃ降り、しかし一夜明ければ、伊勢中川CCCは、しめり気も適当にあつて絶好のゴルフ日和、おまけに三つ下のすばらしい美人がパートナーとして友達など数帳の外、がぜん身体にあちこちが、久しぶりの充実した感じが、飛び出しのドライブもグインと伸びボールにはほとんど入り、終つて見ればプロなみの七五というスコアで優勝、その夜は頂戴した優勝カップで乾杯、おまけにあちこち参りむくまでの手荒い祝福を受けました。

幹事さん、本日に御苦労さまでした。

竹組優勝

山岸 健 (昭和25年卒)

有限会社 フォトスタジオ **ウエダ** PHOTO-STUDIO UEDA

本店 津市東丸之内25番9号
11ビル店 津市栄町3番14号

日本土建株式会社

取締役社長 田村 憲司
津市大倉19番の15

三菱重工株式会社 総代理店
株式会社 住原製作所

三愛物産株式会社

取締役会長 平井 蓮太郎
名古屋市中区丸の内三丁目17番10号
電話 (052) 962-9251

一つの黄金時代

坂口幹生 (大正12年卒)



御民われける験あり天地の
榮ゆる時にあへらく思へば

海犬養宿御歴ならずとも、人は誰でも自分の生きて来た人生の一瞬に対し感謝の意をこめてこれを詠歌するものである。

思う。私は大正七年四月から大正十二年三月までの五年をこの学校で教えを受けた今年八十六才になる老人であるが、私たちの在任時代の津中は確かに一つの黄金時代であったと思う。

私が田舎の一小学校から入学した当時、津高は三重県立第一中学校という校名であった。校長山本安次郎先生は東大井上戸下先生の門下で、講堂で学年単位の合併授業で修身の講義を担当せられていた。先生は黒髪で立派な顎鬚をたくわえられ、少し厳格な方であった。此の目では「まじめ」と怖かった。然し私たちが三年生の時、京都府立一中の校長、後、第三高等学校(旧制)の校長に栄転せられていた。

之助先生の下に集められた諸先生はいずれも一騎当千で、担任科目についての学識は深く、それだけに学問上の指導も、又生徒生活上の訓育も非常に厳しかった。『そめちゃん』こと英語の宮嶋染江先生、『司馬遷』こと漢文の柴崎繁次郎先生、『ボクチャーン』こと国語の中西寛先生、『北條早雲』こと英作の佐藤国彦先生、『岡門』こと数学の岡門之助先生、『カリ』こと国漢の駒田義三郎先生、『ヒョウチタン』こと物理の山下美一先生、『梅さん』こと英語の生明梅三郎先生など何れも然りである。当時津中の教育方針は余りに厳格すぎると言う評判さえ校内外にあった。然しこれらの諸先生はどなたもサラリマン化していた先生ではなく、厳格の中にも夫

々人間的な気骨、風格を持つて居られ、私たちはこの人間的な風格の薫染に惹かれ、その系をたたくことにより、厳格な教育によって閉塞されることもなく、よく自主的に自らを成長せしめていくことが出来た。

又、生徒の方も、当時の入学試験は今日の様な学区制ではなく自由制であったから、受験には北は員弁郡、南は尾鷲地方と全県から県立一中に集り、入学者倍率は実に七・五倍(大正七年)であった。それ文に入学者のこれらの生徒は前記諸先生の上りし御指導と相俟ってよく勉強し、当時津中の上級学校進学率は毎年東京府立一中を筆頭とする全国五校の中に入っていた。

て私が常に守つてきた教育上の信条、信念は、いずれも津中時代の諸先生方から感銘を受けることによつて身に付けたもの許りであった。然しこれらの諸先生ほどなた

も今は故人となられて、在りし日を偲び静かに眼を閉じる時、諸先生のお顔やお声が驂輪として眼前に去来して来る。今は静かに諸先生方のご冥福を祈りますと

島川 甲子三(昭和18年卒)



おやじの恐れ

私は昭和五年、東京商大(現一橋大学)を卒業して、長崎商高教員、長崎大学学生部長、同経済学部長を経て、定年退職後をわれるままに就任した中京大学大学院教授(ググニチニド)七・九が、尾鷲沖の海底に起きた。死者八七二名、行方不明四五〇名、負傷者一八五九名、全壊家屋一五八八戸

怖いものたどえに地震・雷・火事・おやじ、という語がある。その筆頭の地震では、昭和十九年十二月七日午後一時三十分M(マグニチユド)七・九が、尾鷲沖の海底に起きた。死者八七二名、行方不明四五〇名、負傷者一八五九名、全壊家屋一五八八戸

東海道線の列車転覆十二件、地震後津波が襲い、熊野灘沿岸で津波の高さ六十七米、所々で十米を超えた。溺死者二五〇名、流失家屋二〇〇戸だった。次に起る東海大地震、予想規模は、M八・〇である。起る日時が遅れるほど、地域に蓄積する地震エネルギーは高まる。天災中では恐ろしい一番だ。昔は、昔いままも日常身近かに体験するが、蚊帳の中で桑原タケと囁きたる。意味不明の方は若いはず。比べると、恐怖の感覚は少なくなつたように思われる。だが、テレビ、洗濯機、冷蔵庫、電子レンジ、冷暖房機、照明から新幹線交通に至るまで、電力は生活環境の中で、突然の停電は生活シロツクの中で、一筆の雷が変電所に落ちれば、病院の生命維持装置や手術が不能になり、工場やオフィスのコンピュータが混乱する。それに毎年、ゴルフ、登山、海水浴で被害する人も増え、昔では考えられなかった雷災である。三つめの火事は、木と紙の家の江戸の振袖火事、関

とした中に明るい色彩が飛び交つています。大きさは、横十四・二メートル、縦三・五メートルで、壁の存在した壁を幾つも残した壁の灰色の部分の一部を残しておきました。九月二十八日に壁面の手が完成し、再びオープンに出かけました。五月には、まだ十五枚しか出来ていなかったことや、検問所もまだ残っていたので、重苦しい感じがある企画に参加出来たことを大変幸せに思っています。おやじの恐れ

ベルリンの壁を描いて

宮武 貴久恵 (昭和48年卒)



まず最初に私が絵の世界へ入ったきっかけについて簡単に説明します。七歳の時、NHKテレビで馬の絵を描くスウェーデンの八歳の天才少年のことが放映されました。それを見て自分もやってみようと思い絵を習い始めました。先生の勧めもあり油絵でその年、大人の世界でも入り込んだのが決定的な絵との出会いとなりました。

その後、八・九・十歳と三展展に連続入選して、絵を続けていきましたが、大学受験で中断し、中央大文学部へ進みました。卒業後、改めて絵画の勉強のため、ニューヨークに渡り、現在十

一年になります。その間にドイツのフランクフルトで開いた二回の個展がきっかけとなり、旧東ベルリンの壁に絵を描くことになりました。

この企画は、統合前の西側の美術関係者から東側に申し込まれたもので、「世界平和」と統合のため」というテーマのもとに世界中から画家百人程を集め、東西分断の象徴たる「壁」を長さ三・三キロメートルにわたり野外ギャラリーに作り変えようというものでした。この話は、二月の中旬ニューヨークのアートエドで通達を受けました。その頃私が追及していた絵のテーマが「滲み渡る光」というもので

れ、壁面も完成し、それを見に一日平均十七万人が訪れる観光名所になっていました。壁面のオープンニングでは、ゴルバチョフ大統領からのメッセージもあり、この企画に対して多くの人々から賛辞が寄せられていました。夜おそくまで多くの観光客が訪れているのを目の当たりにして、改めて意義深さを感じ、私自身がこの企画に参加出来たことを大変幸せに思っています。おやじの恐れ

河合塾

中部本部
☎(052)735-1111(大代)
〒464 名古屋市千種区今池2-1-10

三重県月の友の会

〒514 津市半田高松1470番地
TEL (0592) 25-2111(代)
FAX (0592) 25-2115

原田土地開発株式会社

三重県津市大谷町181番地
TEL (0592) 26-7777

世界の僻地を旅して

近藤典生 (昭和8年卒)

数日前 津高の同窓会の方から 電話で会報の原稿依頼を受けた...



南西アフリカ ナマッカランドの巨大なアロエ・ディクトマの林立する丘を背に

平成3年度 三重桜総会案内

とき/平成三年四月二十一日(日)
ところ/津商工会議所五階
会費/四千元
備考/日程等詳細については、後日年度幹事を通じて連絡いたします。

平成二年度入試分析と 三年度入試展望

進路指導部長 西村照子

「一種」の化石の発掘調査など、日本テレビやNHKで放映された...

勿論、それらの行程のなかには、後から考えてみると、危険なことも数多くあったといえる...

近代農業は確かに技術的進歩が著しい発展を遂げ、生産性の向上をみることもできた...

百十周年を記念して 同窓会より寄贈
○百十周年記念として同窓会より津高校に対して皆様方からお寄せいただいたお礼状の中から...

問題に対応した農業における発想の転換を行うべきであることを、つくづく思い知らされているのである...

平成二年度国公立大学入試の特徴として、大学入試センター試験が実施されたこと、分離分割方式採用校が増加が挙げられる...

受験者数は前年の二五、五万名から二二〇万名へと増加し、一段と厳しい入試となる...

Table with columns for university types (National, Public, Private, Short-term) and years (H2, H1, S63). Rows show the number of qualified students.

川井病院
泌尿器科・皮膚科・肛門科・整形外科・理学診療科・麻酔科
医療法人 川井病院
津市本町26-11 TEL (0592) 25-4114(代)

津自動車学校
マナーアップみえ・守ろう交通ルール
津新町駅西 ☎(0592) 24-0188

沢平株式会社
沢口 鈺造 (S9年卒)
愛知県愛知郡日進町南ヶ丘3丁目15-1 TEL (05617) 3-1766

共立印刷株式会社
津市中央2番20号 TEL 0592-24-1225

近畿日本ツーリスト
運輸大臣登録一般旅行業第20号
津支店旧団体(0592)27-5516 個人グループ(0592)28-4111

医療法人 横山胃腸科病院
入院応需 ☎(052) 332-1811(代)
名古屋(地下鉄鶴舞駅⑥出口) ※駐車場完備

お知らせ

平成三年度 同窓会パーティー

日時 平成三年八月三日(土) 午後三時より

場所 津セントターパレス(三重会館前)

担当学年幹事 昭和33年卒 昭和45年卒

名古屋同窓会復活

鈴木正治(昭和17年卒)

平成二年六月十六日(土曜日) 別案の審議があり、原案通り承認... 津高名古屋同窓会総会が十時から...



九州同窓会がスタート 平山正衛(昭和16年卒)

昨年十一月に同窓会本部のお世話を発起人を開き、この九州に百名もの同窓生がいる事を認識する...

再スタートした 東京同窓会大盛會

近藤好徳(昭和29年卒)

昭和三十八年の第一回(会長・駒田三郎先生、明治三十年卒)以来、十二年続いたが、第四期会...

大阪同窓会開催

大阪同窓会は十一月十一日阪神百貨店にて、一九九名という多数の参加者を得開催された。

大正十四年(昭和十九年)に創立された。本部から会長、富島副会長が出席した。本年は恩師として森谷重夫、竹田様との両先生が招待を受けた。

京都同窓会をたずねて

秋晴れの十月二十八日(日)に第二十四回京都同窓会が鴨鴨の生研会館二階で開催された。本部から正会長、徳田副会長、事務局が出席。

学年会予告

昭和三十八年卒代表・杉浦幸生)の同窓会を平成三年一月二日三時よりサンルート津にて。

ふる里創り等々、色々なヒントを載いた同窓会でもあった。最後に故郷より山鹿戴いた恩がようございまして。



かねてより百十周年の事業を完遂する為に会員の皆様(募金の)協力をお願いして参りました。おかげをもちまして百十周年記念事業はこの新聞で報告しましたように無事、多大の成果を収めて終えることができました。

お知らせ

- 津高創立百十周年記念のイベントをVTRに収録しました。
① 第二回同窓会美術展(72分)
② 同窓会パーティー(83分)
③ 記念演奏会(80分)
④ 弘田龍太郎歌碑除幕式(46分)
⑤ ダイジェスト版(62分)
⑥ 寄附の方は各巻三千五百円(送料込)事務局までご連絡下さい。

計報

津高六代目校長、市川一郎先生が十一月十二日、津にいられた。八ト、津にいられた。津高で教養を教える、今般して面倒みていたいた渡辺隆賢先生が五月十九日、津にいられた。向先生の、富島を心よりお祈り致します。

Carina ソアラ クラカ 三重トヨタ自動車株式会社 本社 津市大字垂水99-1 TEL (0592) 26-2181代

岡三証券株式会社 取締役社長 加藤 精一 (S22年) 津高東京同窓会会長 〒153 東京都中央区日本橋1丁目17番6号 TEL (03) 272-2211

まごころで 明日へつなぐ トータルバンクの(百五)です。 本店・津市岩田21-27 県内店舗数:123 百五銀行